



くすり博物館だより

The Naito Museum News

No.75

2021/8/24

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1

Tel.0586-89-2101 / Fax.0586-89-2197

<http://www.eisai.co.jp/museum>

2021年度企画展 内藤記念くすり博物館・内藤記念科学振興財団

日本人を苦しめた感染症と新型コロナウイルス感染症

2021年4月28日(水)～2022年3月31日(木)

今回の企画展では、特に日本人を苦しめてきた天然痘や麻疹、スペイン風邪などの“はやり病”の歴史を振り返るとともに、近年猛威を振るったSARS、MERS、新型インフルエンザ再興感染症や新興感染症とその治療薬、対処法を解説します。

また流行中のCOVID-19についても最初は「原因不明の病」として登場しましたが、どんな病気なのか、どんな治療薬やワクチンが開発・使用されているのかなど、2020年12月までに判明している過去の情報を整理して紹介します。

「コロナ禍」と呼ばれるCOVID-19流行の記録のひとつとして、また、避けては通れないさまざまな感染症を軽視せず、乗り越えるための理解の一助となりましたら幸いです。

企画展会場では資料70点以上の資料とともに、はやり病の歴史を病気ごとに資料を交えて紹介しています。また、新型コロナウイルス感染症についてはパネルにて時間軸に沿って解説しています。錦絵の読み下し・解説パネルなど、常設展とは違った展示をお楽しみ頂けます。



▲企画展会場入り口
デザインには『はやり風用心』使用しました。

資料紹介 ～昔のマスク～



『薬粧マスク』
布製 昭和20年前

明治13(188)年に東京の医療機器商・いわしやが『レスピラートル(呼吸保護器)』の名前で、「肺病またはのど(喉)の病める人、常に風(風邪)ひき易き人、ぜん息、たんせき(痰咳)、あるひは寒き風を厭わず旅行する人等」に一日も欠くべからざる良器なり」という広告を出しています。

企画展図録 発売中！

『日本人を苦しめた感染症と 新型コロナウイルス感染症』



A4判 96ページ
1,000円

郵送もしくは
FAXでのご注文も
受け付けておりま
す。詳しくは当館
HP<出版物・販売
物>を御覧ください。

古代から近代の感染症流行

多くの人が集まって居住するようになると、集団の中で病気が広がることが増えます。本来、ある特定の地域の風土病だったものが文明の発達や文化の交流に伴い、他の地域へと伝播して流行が拡大し、さらにはその土地に定着していったものと考えられます。

医学や薬学が未発達時代には、病気は神様の怒りであったり、疫病の紙となった死霊、悪霊の祟りと考えられ、その病気を「けがれ」として祓うことで治療としてきました。

先人達はどのように病気を対処してきたか、本企画展で展示されている資料をいくつか紹介します。



◀赤物

天然痘は、天然痘ウイルスによる感染症です。ウイルスに感染すると、急激な発熱、激しい頭痛、腰痛に続き発疹が現れ、治癒後は顔面に瘢痕（はんこん）が残り、ときには失明の原因ともなります。

江戸時代では、病魔の疱瘡神が病気をもたらすと考えられていました。疱瘡神が赤を嫌うもしくは好むため、こどもには赤色の郷土玩具(赤物：左画像)を与え、子どもの成長と疱瘡にかからないよう願いました。

▶『はやり風用心』

明治3（1890）年の流行性感冒（インフルエンザ）が流行について書かれた刷物です。医者、薬屋が大繁盛する一方、銭湯や散髪屋に閑古鳥が鳴く世相を描き、医学的な情報を紹介しつつ迷信を批判しています。

左の家の前に「お染久松るす」という貼り紙があります。江戸時代の半ば、感冒がはやると当時の流行物にちなんだ俗名がつけられました。「お染久松風」は浄瑠璃の人気演目にちなんでおり、この貼り紙を貼れば病気が家に入らないとおまじないでした。

なお、江戸時代まで流行性感冒は「風（ふう）」の邪気で起こるため、「はやり風」と表記されました。



『はやり風用心』
明治24年(1891)

現代の感染症流行

1970年代頃まで明らかになっていなかった病原体により生じ、公衆衛生上問題となっている感染症を「新興感染症」といいます。新型インフルエンザやSARS、MERSなどが例にあげられます。また、既知の感染症のうち、一度は発生したものの宿主・病原体関係の変化などにより近年再び増加、または公衆衛生上問題となっている感染症を「再興感染症」といいます。結核やマラリアなどがあげられます。

コロナウイルス

ヒトに感染するヒトコロナウイルスは4種類あり、動物から感染するコロナウイルスには2種類あります。冬季のかぜ症候群の流行ピーク時には、原因の35%をヒトコロナウイルスが占めますが、重症化の例はほとんどありませんでした。SARS、MERSもコロナウイルスにより引き起こされます。

新型コロナウイルス感染症は、7番目に発見されたコロナウイルス「SARS-CoV-2」により引き起こされる「COVID-19」という新興感染症です。「COVID」は「corona」、「virus」、「disease」の頭文字から取り、「19」は2019年に発生したことに由来します。

ウイルスと細菌性疾患の歴史

細菌の発見

当時は生物が無生物から自然に発生するという自然発生説の考え方が主流でした。1675年にレーウェンフックが顕微鏡で微生物を発見し、病気の原因としての微生物の研究は盛んになりました。その後、微生物が病気の原因ではないかという自然発生説を否定する考えが現れ、パストゥールは白鳥の首フラスコの実験の後、1861年に自然発生説を否定しました。パストゥールは炭疽（たんそ）菌の培養にも成功し、微生物が病原体であることも証明しました。ジェンナーの牛痘接種成功の後、予防接種による免疫の獲得メカニズムはしばしの間解明されることはありませんでしたが、パストゥールは感染症は微生物によるものだという想定のもと実験を行い、1881年に炭疽菌予防接種の公開実験を成功させました。



▲白鳥の首フラスコ(複製)

ウイルスの発見

1890年では感染・発病してから回復後に免疫を残すものをウイルスと呼び、ウイルスは微生物であると考えられていました。1896年にレフラーとフロッシュが牛の口蹄疫の水疱中の漿液を素焼きの細菌濾過機で濾過し牛に接種したところ、本来ならば濾過されないはずの病原体が残っており、牛は口蹄疫を発症しました。翌年、2人は細菌濾過機を通過する微小な病原体が増殖することで病気が起こると発表し、動物ウイルスを最初に報告しました。

同年、ベイエリングがタバコモザイク病の病原体の分離に成功しました。病気にかかったタバコの葉をすりつぶし、細菌濾過機を通したものを健康なタバコに塗ったところ、葉に病気が生じました。しかし、当時の顕微鏡ではウイルスを見つけることはできませんでした。1935年にスタンリーはタバコモザイク病のウイルスを結晶の形で取り出すことに成功し、感染性があることを発表しました。ウイルスが電子顕微鏡で見ることができるようになったのは1939年のことです。



▲レーウェンフックの顕微鏡(複製)

薬草紹介

トウシキミ (Illicium verum Hook.f.)

マツブサ科の植物で、生薬名は大茴香(ダイウイキョウ)といいます。中国医学では芳香性健胃に用いられ、未熟果は香辛料の八角(ハッカク)として使われています。

トウシキミに含まれるシキミ酸は抗インフルエンザ薬であるオセルタミビル(リード化合物)としても知られています。



◀薬草園のトウシキミ
▼生薬 大茴香



薬草園リニューアル

内藤記念くすり博物館 薬草園・薬木園では、昨年より大規模リニューアル工事を開始し、今年8月に終了いたしました。

通路整備、ポタジェ（実用と観賞を兼ね備えたコーナー）や花壇などの新設を行いました。順次植え付け作業を行っていきます。レンガ花壇ではビタミンを多く含む植物、テーマ花壇では医薬品の原料になった植物など、テーマを決めて薬草を紹介する予定です。



新型コロナウイルス感染防止対策にご協力をお願いします

内藤記念くすり博物館は昨年に引き続き、今年度も制限を設けて開館しております。

博物館へご来館頂くお客様にはマスク着用、体温測定、手指消毒、入館記録のご協力をお願いしています。

工場見学の休止やイベント等の一部中止等、当面ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、開館情報と注意事項の詳細につきましては、当館HP（<http://www.eisai.co.jp/museum>）「What's New」内、「ご来館にあたってのお願い」を掲載しています。ご一読の上ご来館くださいますよう、お願い申し上げます。

内藤記念くすり博物館 ご来館にあたってのお願い

【開館日時】 火曜～土曜日 9:30～16:00 （日曜・月曜日は休館します）
（最終来館時間は15:30まで）

【ご見学について】
・団体（10名様以上）のご見学（博物館・薬草園・工場）はできません。
（脱臼バス、マイクロバス等での来館はご遠慮ください）
・ご来館に際しては、検温して発熱がないことをご確認ください。
・発熱（37.5℃以上）や体調不良の方がいらっしゃる場合は、ご同行の方全員のご見学会を中止させていただきます。

【来館者の方へのお願い】

1. ご来館時に検温します。
2. アンケート※にご記入ください。
3. 館内では常にマスクをご着用ください。
4. 受付で手指のアルコール消毒をお願いします。
5. 咳やくしゃみの時にはハンカチや袖で口元をおおって「咳エチケット」にご協力ください。
6. 館内では人と人の距離を保って、1時間以内を目安にご見学ください。入場を制限する場合があります。
7. 体調が悪くなった場合はスタッフにお声がけください。
8. 入場制限を行うことがあります。

※検温はご来館時と帰館時に行います。検温結果はデータ管理いたします。

【当館の手配対策】
※スタッフの出社時の検温、健康チェック、マスク着用、手指消毒を行います。
※受付にはフィルムカーテンを設置し、接客時にフェイスガードや手袋を使用する場合があります。
【施設とイベント】
※展示館・体験コーナー、DVDシアター、大・小・多目的ホールはご利用できません。
※ロッカーのご利用、車椅子・ベビーカーの貸し出しは休止します。
※オリジナルグッズを含むイベントは中止します。 ※ウツコン等の制限は休止します。
【取組】
※利用前日までに電話でご予約ください。
※利用時間は午前9:30～11:30/午後13:10～15:30です。
※ご利用は午前、午後それぞれ5名様までです。
※博物館ご利用時と帰館時に検温とアンケート、手指のアルコール消毒をお願いします。

安全と安心のために
ご理解・ご協力くださいますよう
よろしくお願いいたします

くすりに関するお問い合わせ先
内藤記念くすり博物館 〒501-8519 岐阜県岐阜市川島竹早町1
TEL: 0586-89-2101 FAX: 0586-89-2197

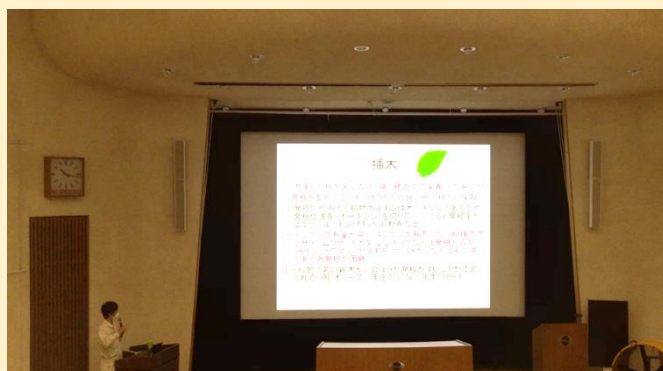
～昨年度（2020）年間活動報告～

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画展	休館		←									
栽培教室			←									
川島ライフデザインセンター講演								←				

昨年度は新型コロナウイルス感染症感染防止のため4、5月は休館しました。また、開館後イベント等は中止いたしました。

友の会によるボランティア活動、栽培教室のみ開催することができました。

また、館長が川島ライフデザインセンターにて出張講演を行いました。



栽培教室の様子



内藤記念くすり博物館

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1 tel. 0586-89-2101 / fax. 0586-89-2197

<開館時間> 9:30-16:00（博物館・薬草園とも最終入場時間は15:30）<休館日> 日曜日、月曜日、年末年始

<入場料> 無料 <ウェブサイト> 「くすりの博物館」 <http://www.eisai.co.jp/museum>